



発行所 独立行政法人国立病院機構 西別府病院
 住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
 TEL 0977-24-1221(代表)
 FAX 0977-26-1163(代表) 0977-76-7231(連携室)
 ホームページアドレス [http\(s\)://nishibeppu.hosp.go.jp](http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp)



大分農業文化公園のコキア R3.10.29 (杵築市)

目 次

病棟再編に向け令和3年度下半期の取り組み……………	2	患者ご家族からのご寄附について……………	5
医局紹介 神経内科……………	3	永年勤続表彰……………	6
病棟増築整備工事(東病棟)地鎮祭 ……………	4	令和3年度 病院運営方針……………	6

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
 5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
 3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利
 5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利



日本医療機能評価機構
 認定番号: JQ1505号

病棟再編に向け 令和3年度下半期の取り組み



院長
後藤 一也

西別府病院の広報誌をご覧ください誠に有難うございます。平素は大変お世話になっており感謝申し上げます。

令和4年度からの病棟再編に伴う東病棟増築工事は、本年7月の地鎮祭からほぼ計画通りに進んでおります。令和3年度も半ばを過ぎ、病棟再編まで5か月余りを残すばかりとなりました。令和3年度上半期の病院の取り組みの振り返り、下半期に取り組むべき要点を、6つの病院目標をもとにお示しします。

1. 病棟再編を円滑に遂行する

工事に伴う患者さんの病棟間の移動を進めています。再編される病棟での病床運用では、これまで以上に病棟間での協働した病床運用が求められております。

2. 収支を黒字化する

経費削減に努めていますが、建物、設備の老朽化により、例えば大雨により修理・修繕費用が増加しており、改めて病棟再編の必要性を再認識しております。

3. 役割分担（職種・会議）を明確にして提供すべき医療・福祉サービスの内容を定める

新型コロナウイルス感染対策については、関係職員の取り組みによって、決定、実行までの会議の流れが定着しています。障害福祉サービス関連では、多職種からなる検討チームから決定会議に至るまでの協議、決定、実行の流れを確立することを目指しています。

4. 適正な保険診療および診療・障害福祉サービス等報酬の請求を行う

前回の個別指導での指摘事項を中心に、診療報酬適正化委員会を中心に、保険診療の手引きに沿った診療録の記載のあり方に取り組んでおりますが、課題山積の状況です。

5. 新型コロナウイルス感染症の院内感染を起こさない

面会制限が継続していますが、ワクチン接種の広がりもあり、感染状況に応じて対面面会を再開しております。第5波の際には、感染防止に関わる組織としての取り組み、職員の感染防止意識の重要性を実感しました。

6. 適切な言葉遣いを通して接遇を向上する

虐待防止については、職員の研修、防止に関わる環境整備などの課題は多いのですが、虐待防止、接遇改善には形から入るべきであるとして挨拶、呼称について、職員一人一人への浸透を図っています。また、虐待防止推進室を設置して、職員研修や外部委員の招聘、相談窓口の周知など対策と進捗状況を管理していきます。

「始めあらざるなし、克く終りある鮮し」（詩経）を戒めとして、病院目標の達成を軸に、病棟再編に向け職員一丸となって取組んでいく所存ですので、引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

医局
紹介

神経内科

神経内科医師 片山 徹二

当院は大分県の難病診療分野別拠点病院（神経・筋疾患）であり、筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経難病の患者さんの受け入れを行なっています。また外来では更に頭痛、めまい、痺れなどの診療も行なっています。

今回は当科に入院している患者様の多くを占める筋ジストロフィーについて説明しようと思います。筋ジストロフィーとは骨格筋の壊死と再生を主な病態とする疾患です。臨床病型によって原因遺伝子が違い、骨格筋の構造蛋白、核膜関連蛋白、サルコメア関連蛋白などの異常により筋萎縮や筋力低下を呈します。臨床病型には、Duchenne型、Becker型、肢帯型、先天性、顔面肩甲上腕型、眼咽頭型、Emery-Dreifuss型、及び強直性筋ジストロフィーなどがあります。

これらの中でも代表的な病型の一つであるDuchenne型筋ジストロフィー（以下DMD）を例に挙げて当科の関わりを説明します。

DMDはX染色体短腕にあるジストロフィン遺伝子(Xp21.2)の変異により、骨格筋形質膜の安定に重要なジストロフィンタンパク質が欠損するX連鎖劣性遺伝の遺伝性疾患で、新生男児4,000～5,000人に1人の割合で発症すると言われています。経過としては、処女歩行は健常者より遅く、3～5歳時に転びやすい、走れないなどで異常に気付かれますが、乳幼児期に血液検査の異常で発見されることも多いです。5歳頃に運動能力のピークをむかえて以後は緩徐に症状が進行し、多くは10歳前後で歩けなくなります。運動能力の低下に伴い、関節拘縮や背骨の変形が出現・悪化していきます。10歳以降に呼吸不全や心筋症・心不全を認めるようになりますが、時期や速さには個人差があります。近年は呼吸管理や心不全治療の進歩により、40歳以上の生存例も増えています。当院にも30歳代や40歳代のDMD患者様が多くいらっしゃいます。

DMDには様々な合併症があります。呼吸筋障害による呼吸不全、心筋障害による心不全、嚥下筋障害による誤嚥性肺炎や栄養障害、体幹筋低下による側弯（体幹変形）などがみられます。またジストロフィンタンパクは神経細胞にも発現するため、学習障害や発達障害、知的障害を来す場合があります。

このようにDMDは小児期より日常生活が困難となり入院生活を送ることになる患者様も多くいます。当初は小児科で診療されますが、青年後期以後はキャリアオーバーにより神経内科で診療するようになります。入院診療では運動機能維持および、関節拘縮などの合併症予防のため理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリテーションを行っています。その他にも看護師・作業療法士・臨床工学技士による排痰補助療法や、療育担当相談員による環境調整や援助、レクリエーションなどの精神ケアなども行っております。在宅移行のために医療ソーシャルワーカーや地域の介護事業所や訪問看護などとも連携を行っております。このように多職種で連携して診療を行なっています。

当科のスタッフは現在常勤医3名で、100名超の入院患者様の診療および外来診療を行なっています。今後も地域医療や難病医療に真摯に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

担当医師 片山 徹二（神経内科医師）
大分医科大学（現大分大学）卒

病棟増築整備工事(東病棟)地鎮祭

企画課長 山 本 賢 一

令和4年4月1日からの病棟再編に向け、東病棟増築整備工事を施工中《工期：令和3年7月7日～令和4年3月20日》です。工事準備期間中の7月12日に安全祈願を込めた「地鎮祭」を実施しましたので一部の写真を交え紹介します。

「地鎮祭」は東病棟北側のヒーリングパークに祭場(テントを二張り)を設営し、近日では珍しい快晴の中、少人数で厳かに開催しました。



手水(てみず)之儀 により祭場外で身を清めた後、祭場に入り神事 **開式**。
神事の流れと意味(工事関係者に伺いました)は以下のとおりです。

- 修祓(しゅばつ)之儀** 穢れ(けがれ)を払い清浄になる儀式
- 降神(こうしん)之儀** 祭壇に神様をお招きする儀式
- 献饌(けんせん)之儀** おいでになった神様にお供えをする儀式
- 祝詞(のりと)奏上** 神前に工事の安全を願って祝詞を奏上
- 清祓(きよはらい)之儀** 土地を祓い清め災いが生じないように祈願する儀式
- 地鎮(じちん)之儀** 敷地の永遠の安定と工事の無事安全を祈願する儀式

- ・刈初(かりぞめ)之儀 — 鎌で敷地の雑草を刈り取る儀式
- ・穿初(うがらぞめ)之儀 — 鍬で土を掘り起こし起工の一步を印し土地を綺麗にならす儀式
- ・鎮物理納(しづめものまいのう)之儀 — 神職の鎮め物を敷地に埋め安全を祈念する儀式

玉串奉奠(たまぐしほうてん) 玉串は工事の無事安全を祈ってその心を神に捧げる

撤饌(てっせん)之儀 祭壇から供物を下げる儀式

昇神(しょうしん)之儀 祭壇から神がお帰りになる儀式

神酒拝戴(しんしゅはいたい) 供え物のお神酒や神饌をいただく ※神事次第には省略

閉式



祝詞奏上



清祓之儀



刈初之儀



穿初之儀



鎮物理納之儀



玉串奉奠

神職の野太い声(失礼な言い方でしょうか?!)での祝詞奏上、神秘的な清祓之儀、地鎮之儀の三種の儀式では刈初之儀は後藤院長、穿初之儀は村田相互設計九州支社 一柳取締役支社長、鎮物理納之儀は浦松建設 浦松代表取締役が各々「エイッ!エイッ!」という勇ましい掛け声と共に儀式を遂行されました。

困ったときの神頼みではなく、病院全体と設計・工事関係者が一丸となり工期内完成に努力する所存です。

患者ご家族からのご寄附について

管理課長 菊地 武司

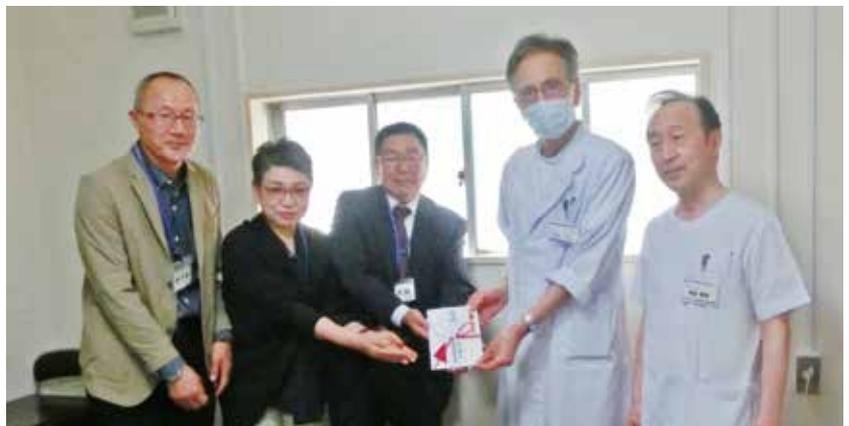
この度、難病の筋ジストロフィーで2013年に27歳という若さでお亡くなりになった小野充(まこと)様のご家族より寄附をいただきました。充さんは3歳の時、筋ジストロフィーと診断され、最期まで自宅での療養生活をされました。当院の後藤神経内科部長は訪問看護により、亮さんを最期まで診察しました。

充さんは独学でコンピュータを学び、自宅ベッドで、花や風景などの創作活動を続けられました。

充さんのご両親が充さんの生きた証にと亡くなる直前まで描かれた作品展(Makoto 遺作展～すべてに感謝～)を開催し、売り上げを難病医療に取り組む団体ということで当院に寄附していただきました。

ご両親のあったかいご支援に、あらためて厚く御礼申し上げます。ご寄附につきましては、当院の難病医療の充実のために役立たせていただきたいと思います。

小野様と江藤産業株式会社様から寄附贈呈



左から小野様ご両親、江藤産業様

展示会の様子 (R3.4.10～18)



小野様が自主制作されたCD



永年勤続表彰

去る令和3年7月14日に永年勤続者への表彰式を執り行いました。今年は勤続30年の方が5名、勤続20年の方が9名表彰となりました。療養所・国立病院時代より当院及び国立病院機構施設に勤務され、長年の間職務に精励した功勞に対して賞状と記念品が授与されました。今後益々のご活躍を祈念いたします。



区分	所属	職名	氏名
30年	医局	小児科医師	平松美佐子
30年	東1	看護師	橋本民子
30年	管理課	管理課長	菊地武司
30年	企画課	経営企画室長	田辺俊介
30年	放射線科	診療放射線技師長	鴛海勝治
20年	医局	院長	後藤一也
20年	検査科	医化学主任	田島直行
20年	東5	副看護師長	井上陽子
20年	中4	看護師	大野早苗
20年	手術・中材	看護師	小林奈奈
20年	東1	看護師	佐々木美佐子
20年	中4	看護師	園田康子
20年	東4	看護師	藤野良子
20年	企画課	算定・病歴係長	竹田津智子



独立行政法人 国立病院機構
西別府病院

ホームページは
こちらから →



令和3年度 病院運営方針

目的 理想と基本方針に則りより良い医療・福祉サービスを提供する

- 目標**
1. 病棟再編を円滑に遂行する
 2. 収支を黒字化する
 3. 役割分担（職種・会議）を明確にして提供すべき医療・福祉サービスの内容を定める
 4. 適正な保険診療および診療・障害福祉サービス等報酬の請求を行う
 5. 新型コロナウイルス感染症の院内感染を起こさない
 6. 適切な言葉遣いを通して接遇を向上する

方針 令和4年からの東病棟増築・病棟再編に向けて、今後西別府病院が提供すべき医療・福祉サービスを定める。そのため、職員、会議などの役割分担を明確にしたうえで、①専門性の向上、②チーム医療の推進、③適正、効率的な業務の実践に努める。患者の支援体制を整備し、患者との対話を促進するとともに、職員にとってやりがいのある、働きやすい病院をめざす。これらの取り組みを院内外に情報を発信していく。